

実施主体  
中部デザイン研究所 I D室、  
(顧客：表示灯株式会社)

実施期間  
1993年6月～1996年5月

#### 本人の役割

基礎調査、情報収集フローの構築、配色検討、  
図化表示フローの構築、表示要素の総合デザイン、  
駅サインとの整合性確保、制作印刷フローの確認、  
ガイドライン作成

#### スタッフ・開発メンバー

地図デザイナー1名★、筐体および統括デザイナー1名、  
顧客側構想責任者1名、外部協力者3名

駅の改札口周りに設置する「駅周辺の広告入り案内  
地図」である。かつての、極彩色のカラーフィルムを  
使った従来品から、CG制作による省力化を図り、ひ  
いては配色を落ち着いたものにした、とのオー  
ダーがあった。すでに「ぴあマップ」などが配色バラ  
ンスの良い地図を提供していたため、発注担当者との  
間では、完成イメージは当初から一定程度の合意  
があった。

ケーススタディを重ね「地図の良し悪しが駅利用の  
良し悪しに繋がる」との点を確認した。すなわち、情  
報の質は駅での利用者の振る舞い、駅からの利用者  
の振る舞いを左右することが明らかになった。そこ  
で、表示すべき情報を絞り込むとともに、当該社の情  
報収集能力との擦り合わせを図る必要があった。

そこで、全国に展開する各支社を回り、当該社の情報  
収集能力を見極めた上で、そのイノベーションプロ  
グラムを含む、情報地図構築基本構想を策定し、その  
お披露目プロセスを通して「情報の中身こそが、商材  
である」という社内合意を得るに至った。

色彩計画や情報配置計画を詰めながら、密集駅、閑散  
駅、観光駅、等の駅の特性に合わせた表現についても  
検討し、1年間、実際に展開した上で、仕上げとして、  
1年間の施行後、制作プロセスや作図内容、情報提供  
フロー、色彩やピクトグラム表示等の表現全体のバ  
ランスをチェックし、具体例を挙げてガイドライン  
と模範作図例を作成し、表現の品質保障を行なった。

なお、「ナビタ」「NAVITA」の名称は表示灯株式会社の  
発案による登録商標であり、本件デザインには含ま  
れていない。

調査、社内風土の再構成、デザイン、制作フロー構築

## 表示灯株式会社 駅周辺案内図「ナビタ」のデザイン

